

第3回建設産業戦略的広報推進協議会 議事概要

日時：平成25年12月16日（月）15：00～17：00

場所：（一財）建設業振興基金 3階会議室

○ 顧問、アドバイザー及び委員より、総合ホームページの企画・レイアウト（案）について、以下のような発言があった。

- ・ 総合 HP を作ってからの一番の悩みは定期的にサイトの動きがなければ見てもらえないことである。息長くやっていく為には定期的な更新等が避けられない。これから HP を運用していくにあたり、オリジナルの新規コンテンツなどを作っていかなければならないと思っている。具体的には、就活セミナーの開催告知などを協議会が主導してやってみるのが良いと思う。

また、就職エージェントや就職サイトなどとコラボして HP にて就職に係わる物を作れないかと思っている。職種を問わず建設業を学ぶ学生さん達の為の総合情報サイトになったら良いと思っている。

- ・ 総合 HP を運用していくうえで必要となる内容は何だろうかと常々思っている。委員の皆様も張り巡らされているアンテナの中で就職を考えている人達にどんな切り口で情報がぶら下げられていると自分の将来を考える時の参考にしてもらえるのか、その辺のアイデア、切り口、見せ方等はいかがだろうか。デスクの上でパソコンを見ても思いつかない。

- ・ 就職の岐路に立つと本当に役に立つ情報を求めてくると思う。自分の就活というと5～6年前になるが、明日役に立つくらいでないとなかなか見に来てもらえないのではないか。

そして他にない物を作れば良いとは思うがなかなか運営が難しくなるのではないか。もう少し業界団体や会員企業から協力してもらえるような、例えば“我が社の就職試験はこのよう問題を出しています”といった情報があったら、この会社はどういう考えの試験なのか等が分かるのではないか。

- ・ 工業高校の特に建設系の学科に属しているみなさんの就職活動の実態は一体どうなっているのかとなった時に、色々な工業高校の教員の方と情報交換をさせていただくと、夏休み前後からその学校にきている求人票を片手に学校の先生が一人一人の生徒を前にして進路相談を行い、このような求人がきているがどうかと、個別対応型で取り引きをしているとよく耳にする。大学生で就職を考える人と、工業高校で就職を考える人とで今までの現状ではアプローチのされ方というのも多分違うのではないかと思う。そうなるとこの HP はどちらかにターゲットを絞っているという訳ではないので、そういう環境に置かれているであろうみなさんに対して、話をいただいた

面接での生の声や、体験者の生の声や違った情報の提供の仕方で、キーになるような心に響くような物があるのではないかと思っている。

- ・ 私も記事などを書いていて調べ物をするときに困るのが、大きいプロジェクトがあるとして、どういった企業が関わったのかすぐに出てこない。「このプロジェクトに関わっているのはこんな企業です」というのが当たり前に出ていけばひっかかってくるはず。今回を機に情報の出し方を考えていった方が良いのではないか。
- ・ 総合 HP は今まで無い物なので良いと思う。今後、これをどう発信していくかだと思うので、作る側が作って終わりにならないように、その次が大事だと思う。私は数人で会社を23歳の時に作り、ずっと現場でやってきた。なぜ建設業をやってきたかという、給料、生活していく為の選択で入っているので、建設業の間口を広げて、色んな選択が生まれた中で、実際に働くとなると先々が安定しているのかというところの選択肢に入ると思う。そこから現場のコンサル等に就職する方はまた違う経路で学ぶ所はあると思う。
- ・ 総合 HP は情報がたくさん入りそうなので、それをどう引き出すか。与えるだけではなく入って来れる仕組みも大事である。今でいうと FaceBook もこちらから発信したものが勝手に入る仕組みである。注目している物では、東京オリンピックの建設がこれから始まるというのもあるし、可能か分からないがカメラでライブ中継でどのように建設していくとか、カメラではなくても計画が分かるものを見せる等、自分がそこに入り込めるような仕組みを作れたら良いのではないか。
- ・ 多くの方が建設業＝ゼネコンだと思っている。職種ごとに建設業になっているという事を知っている方はどれくらいいるのだろうか。ほとんどがゼネコンだと思っているのではないか。職種ごとに企業が成り立っている事さえ実は知らないという事が分かったので工業高校の先生に対して当団体はこういう団体だという事をパンフレット持参して説明した。我々はスキルアップ、サポート制度というものを他団体と協力しながら工業高校や専門学校に在籍する学生に色々な資格が取れるような仕組みを構築している。研修会については4、5年目になるが工業高校の先生方や、専門学校等と連携をとりながらも取り組みをしてきた中で厚生労働省の事業の支援を受け工業高校の先生や校長先生方に学校の現状はどうなっているか講演していただいた。その際にもっと意見交換する場があればいいのではないかという声があったのでそれは継続して行っていきたい。

先日、ある高校に富士の教育センターの委員会を絡めて行ってきたが、離職率は3年間ゼロのようである。半分が建設業に就職して半分がほとんど地元の企業に就職して離職率ゼロという事らしいので、そういう事を広めていけば自然と建設産業を理解して入って来る人もいるのではないか。将来も継続して必要な産業だという事を理解してもらえば入って来る人もいるのだから、そういうことをこちら側からだけではなく、送り出す側からも積極的に取り組んで行くと良いのではないか。

一回作ったらそれで終わりではなく、どうやって継続してみなさんに理解してもらうかを考えていかないといけない。

- ・ イメージとしては、男性の職場という感じはあるので、それだけで敬遠してしまうと思う。男性の職場というイメージを払拭できるようなものがあれば良いと思う。
- ・ 総合 HP は楽しそうなのが出来たと思う。資料3で探すというキーワードがある。地域で絞るとか専門業種で絞る等があるが、最初色んな話を聞いたときに、働きたい場所、エリアで選びたい人はいるだろうと思っていた。ドボジョの会というのもあり、ヒアリングによく行くのだが、働く場所をどうやって探しているのかと聞くと、自分たちで説明会を開き、企業の方々に来てもらうようにしているが、なかなか来てもらえないという。今度2月に彼女達が高松のホテルで発表をする事になっている。今度マークが出来るので、みなさんにこのマークを使ってもらい展開できたら一目置いてもらえるのではないかと。その仕掛けとして HP に案内の項目を設け、その案内に日建連さんも建専連さんも土木学会も、例えばイベント等をやる際にひとつの所にリンクをはったらいいのではないかと。情報を新聞でひとつひとつ探すのは難しいが、それを一カ所に集約し自分たちでリリースした後にそこにもリンクを載せ、ログインし必要最低限なテーマ名と開催日時等を載せ、全てが分かるようにするとそれだけでも利便性が伝わるし、時間があれば他のページなども見てみようと思ってもらえるのではないかと。便利なポータル等を作り、それにプラスしてマークをみんなが努力して使う方向性に向かえば良い。
- ・ イベント情報はみなさんが自分で入れるのか。事務局が探しに行くというのはとても非効率だと思う。みんながそれぞれログインして書くのか。ログインが嫌で書かない人も多いが、慣れると出来るものである。また、何か載せる物があるのかを確認してから載せるよりも、自分たちがリリースしてから載せた方が早いと思う。
- ・ HP を作ったが当然リニューアルしていかななくてはならない。コンテンツも沢山作ったが、どのコンテンツがどれくらい見られているのかという分析を定期的に行っていく必要があると思う。

また、この HP 自体に以前あった話だが、検索用語を入れて入ってくるよりも別のかたちで入って来るといったのがあったが、どういうかたちで入ってきているのかという、コンテンツの前のアクセスの仕方の調査も必要だと思う。

また、掲示板のようなかたちでサイトを閲覧した方同士が自由に意見や感想や情報の交換、また事務局宛てに意見を言ってもらえるような所は既にあるとは思いますが、それを随所に設け問い合わせ画面を捜さなければ出ないというような状況ではなく何ヶ所かに置き、気軽に入れられるような仕組みが今後必要になるのではないかと考えている。
- ・ コンテンツは良い物を作っただけだと思いが、大事なの中身の問題である。

とりあえずこれを発信するという所から始めるというのはとても良い事だと思う。同時に、そうするからには各団体なりが身を正し、情報発信できるだけのきちんとしたものを整えるという意識を持つ必要がある。あくまでもバーチャルの世界なので例えばだが、高橋さんがおっしゃったように、現状だと窓口を探すのさえも大変なので、色々な窓口を開いていると載せているのであれば、質問がきたらすぐに返せるといった体制がないと次からは見てもらえなくなってしまう。各団体は、もし直接問い合わせが来た場合にすぐに返せる体制を作ってもらふ事をする必要があると思う。

次の段階としては、バーチャルではなくリアルな世界で情報を発信出来るように体制も同時に整えなければならないと思っている。若い人に来てもらうにはブラック企業ではまずいので、各団体がきちんとガイドラインを作り、少なくとも保険にはいつている優良企業認定をして団体がマークを付ける事が次の段階と考えている。

同時に今まで中小企業や地元の企業の合同説明会のようなものというものは無いので、各団体に積極的に人を集めるという事を考えてもらい、具体的に行動に移す。県単位での団体では難しいのであれば振興基金が金銭面、ノウハウ面を支援する必要もあるのではないかと思う。

この問題は根が深く、うちの大学でも上場企業は学生が勝手に選んでくるが、専門工事業に行きたいとか、工務店に行きたいという学生が稀にいるが、それをこの業界を知っている私でも探すのは大変である。というのも、情報として無いし、情報の中で身を正さなければならないというのは、詳しい人間でも普段付き合っている企業の情報だけとか、HP の情報だけだと本当にどういう会社なのかというのは分からない。少なくともその会社が厚生年金に入っているのかも分からない。賃金がどれくらいなのか、ボーナスが出るかなどは全く分からない。それよりも若い人を育てるような体制をもっているのかも調べるのは益々大変な事である。業界側に積極的に人をとる為には、情報を発信する為のリアルなコンテンツを整えていく必要があると思う。

何段階かあるが、まずは始める。次の段階で来年から具体的に人をとるという発想はたいてい何でもあるが、この協議会を通して、一緒にやれるものは一緒にやる、ある形式を決めて情報を発信するというふうには是非とも次の段階に次の年度には進んで頂きたいと思っている。またその次の段階になったら、前から言っていたように各団体のレベルを超えて、国交省も含め建設産業全体として、現場解放デーのようなものを全体で行うとか、地域ごとに専門工事業もゼネコンも無い形で、就職説明会だけではなく産業を知ってもらう為の活動を行うとか、根本にはそれがあるという事を忘れずに活動していただきたいと思う。

現在、人がいないので女性というある意味短絡的な考えで走っているが、世の中考えている以上に若い人の世界や女性は変わっていて、リケジョはますます男よりもたくましくなっているし、ようやく企業も女性をとらなくてはいけないと気付いてきた。スーパーゼネコンは女性から先に就職が決まっている。私が面接員だったら絶対女性からとると考える程、女性がたくましくなっている。そのような実態もあるので、世の中若い人も捨てた物ではないと思っている。

またブラック企業の話が出たが、これは冗談ではなく今の若い人はソーシャルメディアを持っており、問題視しているのは卒業生がこの会社がとてもつらいという情報

を発信していると後輩達が誰も行かなくなってしまう。情報発信する為には各企業がきちんと覚悟を決め、内容を整える必要があると思う。確かにブラックなのだが、ある企業側が一度取り締まりを受け、その後きちんとした途端に学生に人気が出たという情報まで出てしまうので、情報を発信するという事は相当覚悟を決めなくてはならないし、人をとる事も本気でかからないといけない。情報を出すからには業界自体がきちんと考え、覚悟しなければならないと思う。

- ・ ロゴマークコンペをやるときに、これは賞品がすごい高額という訳ではないのでそれ目当てでは来ないと思う。これがどれくらい広く使われるだとか、賞をとった人のマークが日建連や建専連にも載るというインセンティブで応募してくるのだと思うが、今の応募条件にはそれが抜けている。このロゴマークが HP のどこかに載るのか、また Web 上の話だけではなく、これがどれくらい展開されるのかというのをある程度想定して情報を発信していく必要がある。かつそれが無いと、応募する側がどういうイメージのものを応募すれば良いのか分からないのではないか。
- ・ ロゴマークがどこで使われるのかという疑問はある。現在 15 × 15 cm で募集しているが、恐らく小さくなって使う事になるかと思う。小さくなったり横長になったりする場合もある事等を告知するとデザイナーは分かってくれると思う。また、ステッカーは絶対作った方が良くと思う。大きい現場でも小さい現場でもステッカーを貼って、それにスマホなどで読み込めるようにするとすぐにサイトへアクセスできる。かばんやノートに貼る等そういうイメージで色々考えてみてはどうか。

以上